

最終成績

最終成績



リハリのある時間の使い方を練習に参加する姿勢などを言葉やプレーで伝えていた。そして筑波大学のバスケケットボール部として良い結果を残したい。」

部活動の盛んな筑波大学では、多くの期待の新人が入学してくることも珍しくない。「身体能力や技術をみても、今年の1年生はレベルが高い」今年は豊作の年であるようだ。その中でも期待をかける新人選手を数名挙げた池田選手は、「このチームは爆発力があって、し



かも深く、また個人がしっかりといるの春季リーグでは優秀選手賞とアシスト王という個人賞を獲得した選手も輩出。両選手ともに、バスケットボール部のこれからの飛躍を大いに期待している。

これまでひた向きに部活へ身を投じてきた両選手は、いま一休を考えたか伺ってみた。「正直バスケをやめた」ということもあった。池田選手は今までのバスケットボール漬けの日々を振り返り、はにかんで答えた。「遊びたい」ということもたくさんある。今は旅行に行きたい。友人との今ままな時間を過ごしたいと無邪気に語る西村選手の顔には、「旅行」の2文字が書いてあるようだった。

お茶目な側面も持つふたりであるが、もうひとつ共通するのは「バスケットボールが好き」ということ。「厳しい練習を乗り越えて試合で勝った時、自分はバスケットボールが好きなのだ」と改めて思う。そう語る両選手の顔はきらきらと輝いていた。

春季リーグでの反省と抱負を生かし、次の試合に向うべく練習を重ねるバスケットボール部。一方で就職・進学という人生の岐路に立つ両選手。チームスローガンである「挑戦」を、その身で実践する西村選手と池田選手。そして男子バスケットボール部の活躍から今後目が離せない。

(安部隆虎)

平成25年6月19日(水)
第154号

題字: 中山雅史氏
(元サッカー日本代表・蹴球部OB)

今号のみどころ

2面 期待の新人特集 2013

3面 バスツアー体験記

4面 スポーツ・デー特集



筑スポ

漢おとこの春季リーグ

は8位だった。
 快進撃をみせる陸上競技部。自身の目標に向かい、平野選手はまだスタートを切ったばかりだ。

(三浦加奈絵)

第37回

季

5月18日、19日開催

春

スポーツ・デー



体験記

5月18日、19日の二日間にわたり、第37回春季スポーツ・デーが開催された。開会式にはときめき太鼓塾によるパフォーマンスがおこなわれ、早くも会場は熱気に沸いていた。二日間とも天候にも恵まれ、多くの学生たちがスポーツを楽しんでいた。スポーツ・デーの企画は事前申し込みが必要で正式種目と、当日参加可能な学生委員会企画、そして部活動主催のサークル企画の大きく3つに分けられる。レベル別カップ、趣向を凝らした種目、サークル体験ツアーが行われるなど、初心者から上級者まで気軽に参加できるのがスポーツ・デーの特徴だ。最終日、表彰ののちREAL JAMによるパフォーマンス、そして恒例のバレーリレーをもって春季スポーツ・デーは閉幕した。

5月18日、2日間にわたる春季スポーツ・デーが幕を開けた。筆者が出場した種目は、ソフトボール、バスケットボール、そしてミバスの3つ。その中でも最も白熱した、接戦を繰り広げたミバスの試合について、今回は紹介しよう。

2日目の午後1時。会場となる陸上競技場は、キックターゲットやストラックアウト、水合戦など、様々な種目で賑わっていた。キャンパス合戦や城攻めが行われている。投擲場からも歓声が聞こえた。ミバスのトーナメントの参加チームは10チーム。通常よりも小さなコートで行われ、1試合の時間は6分。選手の人数は1チーム4人だ。そして1時15分。いよいよ初戦が始まった。ジャンプボールに競り勝ち、こちらのチームには背の高いメンバーが多かったこともあり、2人が外からシュートを放ち、もう2人がリバウンドを取ると3つ。その中でも最も白熱した、接戦を繰り広げたミバスの流れはこちらにあった。試合の後半に入ると相手チームの選手交代で流れが変化した。徐々に相手チームがボールを持つ時間が長くなり、最終的には10対9で惜敗。結果としては初戦敗退に終わったが、全員が持ち味を出し、シュートを決めたので、悔いはない。初めてのスポーツ・デーを締めくくることができた。

次のスポーツ・デーは半年後の秋。次回はやはりもう少し結果が欲しいところだ。

(鈴木優輔)



公開試合

陸上競技場を中心に、スポーツ・デーの各種目が行われている中、ラグビー場では、筑波大学ラグビー部と東京学芸大学の練習試合が行われていた。昨年度、全日本選手権で見事準優勝を果たしたラグビー部と、対戦相手は筑波大学ラグビー部。OB、地元の子供たちの姿が見受けられた。フーチャブルのユニフォームに身を包んだ選手たちに注がれる熱い視線。前半が終了した時点で、12対17と東京学芸大にやや押される試合展開となった。後半、何度か巡ってきたチャンスをものに、筑波が追い上げ始めた。32対27と、一度は点差をひっくりかえしたものの、終了間際にトライとゴールを決められ、32対34で筑波は惜敗した。

ラグビー場の向かいの第一サッカースタジアムでは、女子サッカー部の関東女子サッカーリーグが行われていた。対戦相手は尚美学園大だ。たびたびゴールを狙うもなかなか決まらず、前半戦を折り返した。しかし、気が付けば2対1で筑波の勝利。見事今期関東リーグ初白星となった。筑波で試合を観戦できる、かつ選手らと興奮を分かち合える貴重な機会である。スポーツ好きの学生におすすめの企画だ。

(三浦加奈絵)



お詫びと訂正

いつもご愛読賜り、ありがとうございます。

筑波スポーツ152号にて、選手名に間違いがございました。お詫び申し上げますとともに、次のように訂正いたします。

●152号2面

誤：九馬萌 → 正：久馬萌
誤：九馬悠 → 正：久馬悠



編集後記

春が過ぎて、青々とした木々の中を通り抜ける風が心地よく感じる季節となりました。大学構内では初夏らしい姿を見せていた新入生がこちらの生活に慣れたのか、いろいろな新しいことに挑戦しようとしている姿をみるのが増えました。そんな中で筑スポにも新しいことに挑戦しようという意気込みで新入部員が入部してきました。初めての取材で緊張したと新入部員の一人が言っていました。そういう私もあるな風に思っていた時があった。なんと2年前を思い出し、次回は夏の大会特集を予定しています。真夏よりも暑い闘いをお伝えします。お楽しみに！

編集長

小峰朱理菜(人文3年)

副編集長

三浦加奈絵(比文3年)

主務

中矢 圭(知識2年)

広報

武藤菜摘(比文2年)

編集スタッフ

大庭夏海(人文4年)

湯地 遼(人文4年)

矢野佳文(人文4年)

安部隆虎(比文3年)

島根崇志(国際2年)

鈴木優輔(人文1年)

岩佐拓哉(工シス1年)

藤原真梨子(社工1年)

発行所/筑波大学体育会
(TEL.029-853-2589)

発行人/綿谷 桂太

編集/筑波スポーツ編集部
tsukusupo@hotmail.co.jp

責任者/小峰朱理菜(編集長)